

2012年3月期 第2四半期 決算発表後 IR 活動での Q&A

- ・ **2012年3月期の下半期業績予想に関して、上半期実績と比べて利益率が低下する予想となっている背景は？**

FPD 機器事業において、液晶パネル市況の影響などにより、下半期は採算性がより厳しくなると予想しています。また、半導体機器事業におけるプロダクトミックスの影響を見込んでいます。さらに経費面では、研究開発を積極的に進めるべく、研究開発費の増額を予定しています。

- ・ **FPD 機器事業の今後の見通しと収益改善策は？**

新たなテレビ用大型設備投資が具体化するには、しばらく時間がかかると考えられます。また、携帯端末向けの中小型パネルの投資は堅調ですが、その投資規模は大きくありません。これらの今後の厳しい事業環境を見据え、10月1日より、固定費の削減、既存事業における変動費の低減を目的とした FPD 機器事業の収益構造改革の取り組みをスタートさせ、収益改善を図っています。

- ・ **第3四半期（10～12月）の半導体機器事業、FPD 機器事業の受注の見通しは？**

半導体機器事業は、ファクトリーなどが増加することから、400億円程度を見込んでいます。FPD 機器事業においては 30～40 億円程度を見込んでいます。

- ・ **中期3カ年経営計画の基本的な考え方は？**

今回の中期3カ年経営計画は、「質の経営へ」を指針に、「収益構造確立と新たな成長への基盤づくり」を基本方針としています。また、リーマンショックで毀損した財務体質を建て直し、変動の激しい業界を勝ち抜いていくために、「自己資本比率 50%以上、純有利子負債ゼロ」（2014年3月末）を数値目標に定め、「利益率の向上」と「資産効率の向上」を通して達成を目指します。

- ・ **中期3カ年経営計画での研究開発費や設備投資費の内容は？**

研究開発費の 470 億円（3カ年合計）は、450mm ウエハー対応など、主に半導体機器関連です。その他、太陽電池製造機器やリチウムイオン関連など、新規事業も含まれます。設備投資の 350 億円（3カ年合計）に関しては、主に研究開発用自家設備の取得を予定していますが、一部、熊本県の工場用地取得費用も含まれます。

以上